

第3章

主な公共施設のあらまし

出典について

本章では以下の2点の資料及び日常の行政活動における業務実績により数値を把握しています。

- ① 特別区の統計 公益財団法人特別区協議会が行っている調査です。23 特別区を対象にしています。主に年度ごと（4 月から翌 3 月）に状況を把握しています。
- ② 江東区事務概説 区の事務事業の概要を収録したもので主に各年ごと（1 月から 12 月）に状況を把握しています。

(1)文化センター

文化センターは、江東区文化センターと6つの地域文化センターからなり、区民文化の発展とコミュニティの振興を目的として、講座・イベント等の事業を実施しています。施設により設備・規模に違いはありますが、概ね、レク・ホール、会議室、音楽スタジオなどがあり、地域文化の振興と地域コミュニティの形成に活用されています。

各施設の所在地、建築年度等は表1のとおりです。

なお、豊洲文化センターは、平成27年9月より豊洲シビックセンター内に移転予定です。

施設名	所在地	開設年度	建築年度	建築後経過年数 (平成26年度時点)
江東区文化センター	東陽4-11-3	S.57	S.56	33年
豊洲文化センター	豊洲2-2-18	H.元	S.63	26年
東大島文化センター	大島8-33-9	S.62	H.2 移転整備	24年
砂町文化センター	北砂5-1-7	H.2	H.元	25年
森下文化センター	森下3-12-17	H.3	H.3	23年
古石場文化センター	古石場2-13-2	H.9	H.9	17年
亀戸文化センター	亀戸2-19-1	H.12	H.12	14年

表1. 文化センター・地域文化センター 所在地・開設年度・建築年度

人口の推移と各館の利用者数（延べ）の推移をあわせてみると、表2のようになっています。

各地域館は、改修のために休館となった江東区文化センター（H24・25）、砂町文化センター（H25・26）を除き、人口の増加に比例し利用者が増加傾向にあります。

全館の利用者の合計人数と、それを人口で割って求めた1人当たりの年間利用回数の推移を見てみると、表3のようになっています。

全館の利用者数は人口増を背景に増加を見せていましたが、東日本大震災や施設の改修等の影響により、平成23年度以降減少に転じています。

1人当たり年間利用件数も、平成20年の年3.8回をピークに減少に転じ、平成25

年には年2.8回まで低下しています。

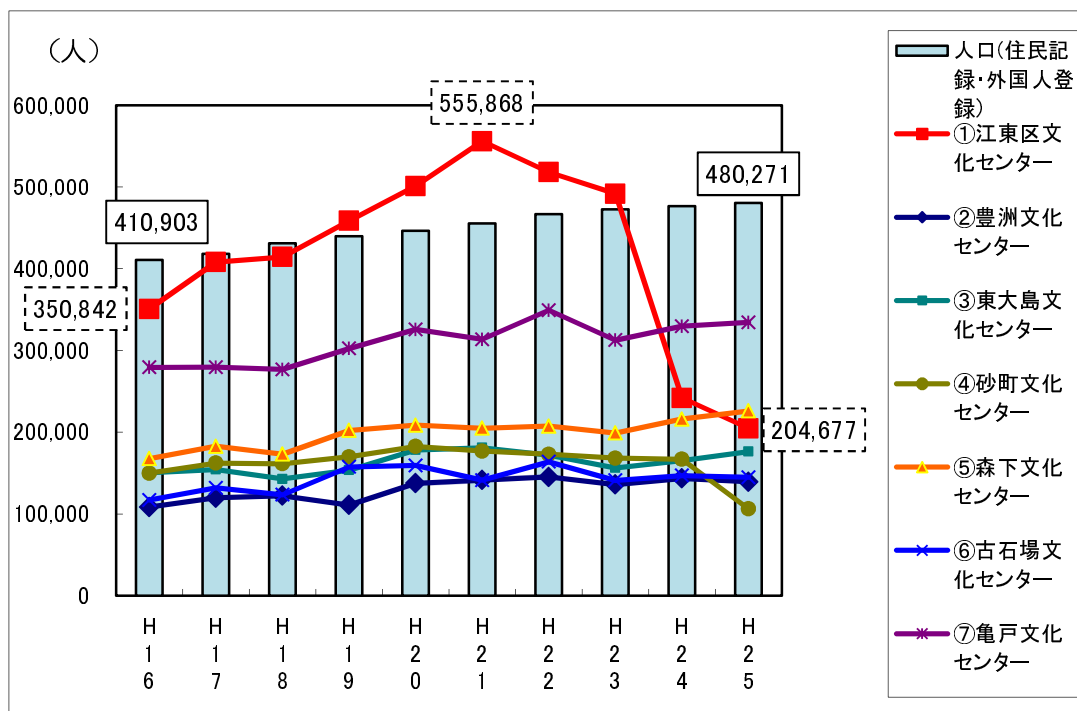


表2. 文化センター・地域文化センター 利用者数の推移

(利用者数：「事務概説」より)

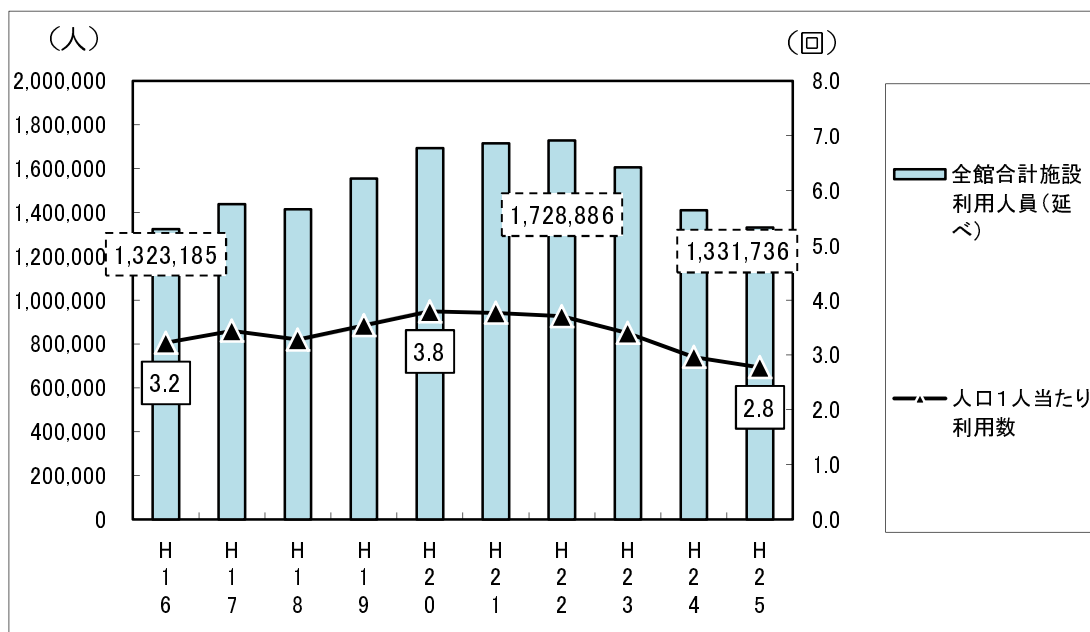


表3. 文化センター・地域文化センター 全館利用者数等の推移

(利用者数：「事務概説」より)

(2)健康老人向け施設

(福祉会館、老人福祉センター、児童・高齢者総合施設)

福祉会館は、区内に居住する高齢者、障害者の健康の保持増進及び教養の向上、レクリエーション等、憩の場を提供し、その福祉増進を図るため設置しているもので、和室・洋室・浴室などが設けられています。

平成26年4月1日現在、区内には7つの福祉会館があり、各施設の所在地、建築年度等は表1のとおりです。

施設名	所在地	開設年度	建築年度	建築後経過年数 (平成26年度時点)
古石場福祉会館	古石場 1-11-11	S.51	S.51	38年
塩浜福祉会館	塩浜 2-5-20	S.46	H.5 改築	21年
千田福祉会館	千田 21-18	S.44	H.19 改築	7年
東陽福祉会館	東陽 6-2-17	S.48	H.17 移転整備	9年
亀戸福祉会館	亀戸 1-24-6	S.49	H.20 改築	6年
大島福祉会館	大島 4-5-1	S.54	S.54	35年
東砂福祉会館	東砂 7-15-3	S.44	S.44	45年

表1. 福祉会館 所在地・開設年度・建築年度

類似した機能を持つ健康老人向け施設として、老人福祉センター（区内に4施設）及び児童・高齢者総合施設（グランチャ東雲）があります。

施設名	所在地	開設年度	建築年度	建築後経過年数 (平成26年度時点)
深川老人福祉センター	平野 1-2-3	S.59	S.59	30年
深川老人福祉センター森下分館	森下 5-11-1	H.8	H.7	19年
城東老人福祉センター	北砂 4-20-12	S.59	S.59	30年
亀戸老人福祉センター	亀戸 9-33-2-101	H.4	H.4	22年

表2. 老人福祉センター 所在地・開設年度・建築年度

施設名	所在地	開設年度	建築年度	建築後経過年数 (平成26年度時点)
児童・高齢者総合施設 (グランチャ東雲)	東雲 1-9-46	H.23	H.22	4年

表3. 児童・高齢者総合施設（グランチャ東雲） 所在地・開設年度・建築年度

なお、夢の島いこいの家は平成22年度に廃止となりました。

福祉会館、老人福祉センター、児童・高齢者総合施設、及び夢の島いこいの家（平成22年度末閉館）の利用者数（各年延べ）の推移を見ると、表4のようになっています。

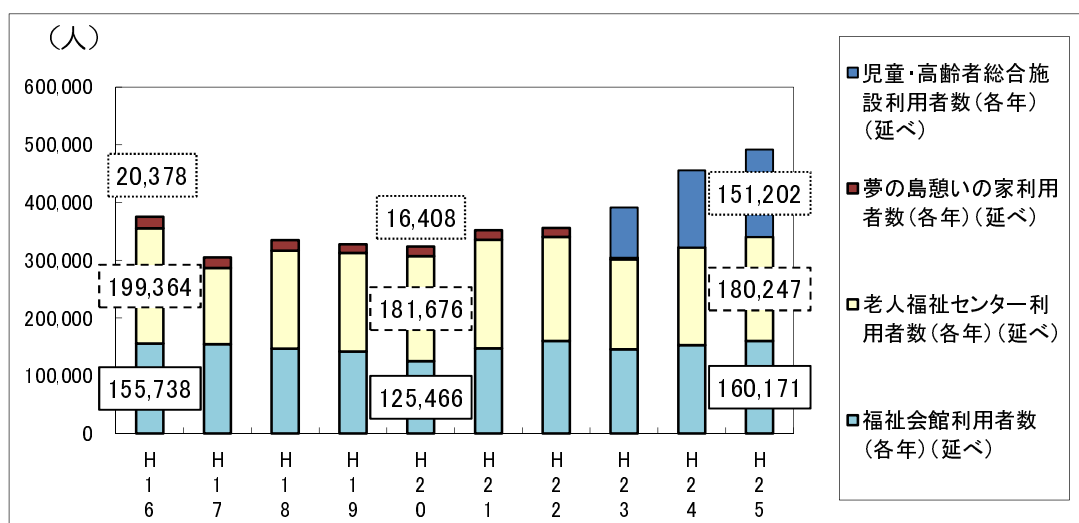


表4. 健康老人向け施設 利用者数の推移

(利用者数：「事務概説」より)

利用者数は多少の増減はあるものの概ね横ばいで推移していましたが、児童・高齢者総合施設（グランチャ東雲）の開設により、急増しています。

各年の利用延べ人数を同年の60歳以上人口で割り、60歳以上人口一人あたりの健康老人向け施設利用回数を求め、推移を見てみると表5のようになります。

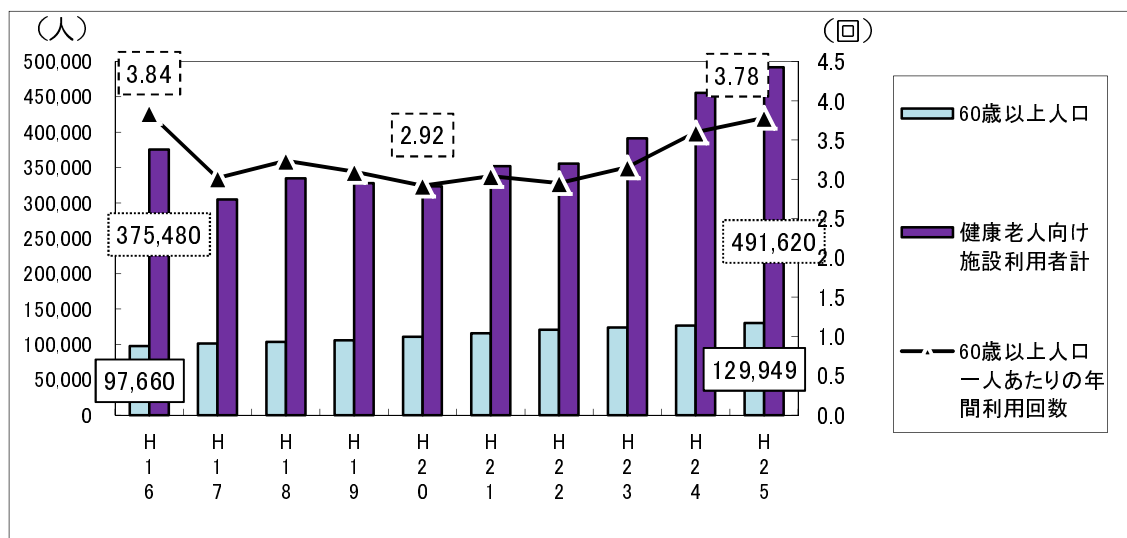


表5. 健康老人向け施設 利用者数・60歳以上人口等の推移

(利用者数等：「事務概説」より)

一人当たり利用回数は、平成20年度に2.92回まで減少しましたが、平成25年度には3.78回となっており、増加傾向にあります。

(3) 児童館・児童会館

児童館は、児童の健全な遊びを通し、幼児、小中学生を対象に個別のおよび集団的に健全育成し、児童の健康を増進し、情操を豊かにすること等を目的とした施設です。施設には、遊戯室・図書室・集会室などが設置されています。ほとんどの児童館および児童会館が小学校1～3年生の児童を対象とした学童クラブを併設しています。

表1のとおり、平成26年4月1日現在、区内には18館の児童館があります。その他に、児童の健全育成活動と教育文化活動のために設置された児童会館が1館あります。また、開設年度は表2のようになっており、最も古いのは昭和44年の森下児童館、千田児童館、亀戸児童館、東砂児童館となっています。

地区名	児童館	児童会館
白河	2	—
富岡	1	—
小松橋	1	1
東陽	1	—
豊洲	4	—
亀戸	3	—
大島	2	—
砂町	2	—
南砂	2	—
計	18	1

表1. 地区別 児童館数・児童会館数

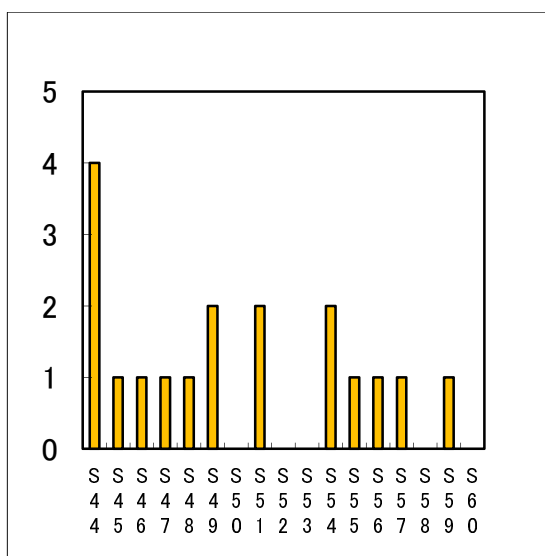


表2. 開設年度別 児童館数

建築後経過年数を表3で見ると、児童館では10年未満の施設が4館、10年以上20年未満の施設が1館、20年以上30年未満の施設が1館、30年以上40年未満の施設が9館、40年以上経過している施設が3館となっています。最も古いのは東砂児童館で45年、次いで東砂第二児童館と大島児童館となっています。

児童会館は昭和56年度建設で、平成26年度で33年目となります。

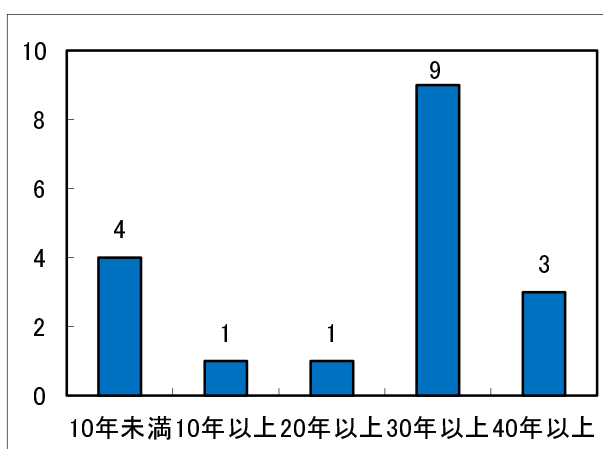


表3. 建築後経過年数別 児童館数

児童館・児童会館の利用者数の推移を見ると、表4のようになっています。近年のマンション急増で、14歳以下人口は増加しており、平成16年度の4万4千人から平成25年の5万9千人に増加しています。この影響で、利用者数も増加を続けていますが、14歳以下区民1人当たりの年間利用回数は、平成20年度の13.1回をピークに減少しています。

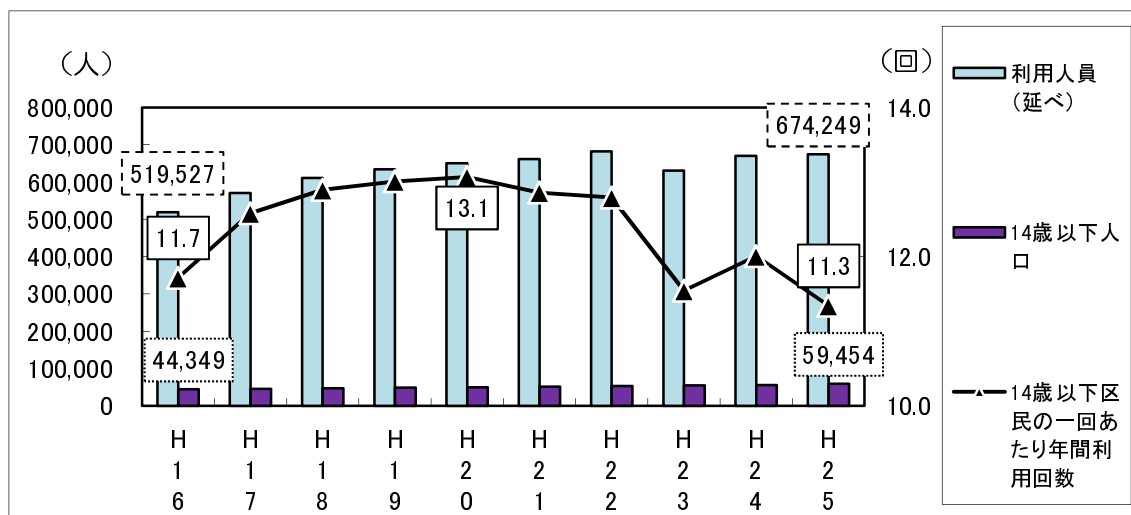


表4. 児童館・児童会館 利用者数等の推移

(利用者数等：業務実績より)

利用形態としては、午前中は曜日を決めて乳幼児とその保護者を対象に「子育てひろば」事業を行っており、午後は、小・中学生の利用が中心となっています。近年の児童館利用者の内訳を見ても、表5のようになっています。平成22年と25年を比較すると、幼児・保護者の割合が増え、相対的に小学生・中学生の割合が低下しています。

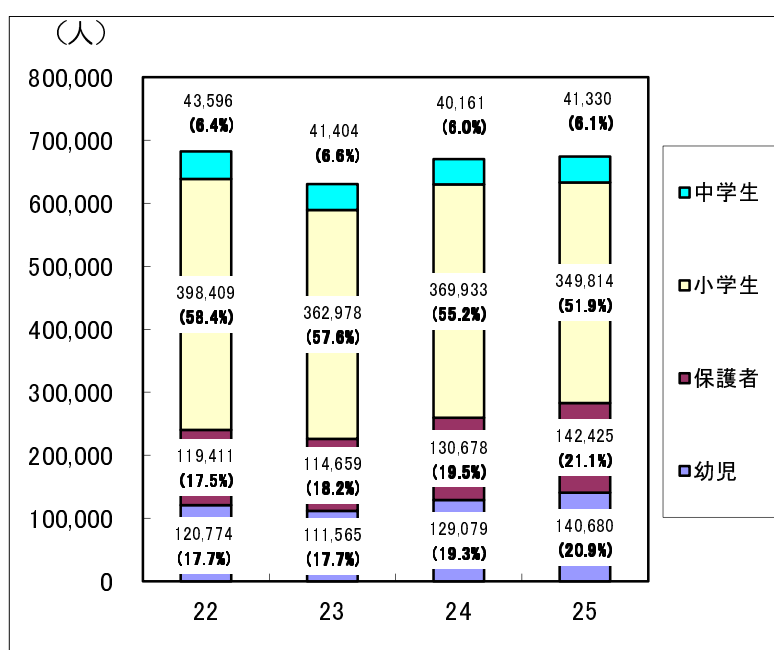


表5. 利用者の内訳

(内訳別利用者数：業務実績より)

(4) 学童クラブ

学童クラブは、区内の小学校に通学している3年生以下の児童で、放課後帰宅しても父母が働いていたり、病気等のため家庭で適切な保護等を受けられない区内在住の児童を対象に、一定時間保育し、児童の危険防止と健全育成を図るものです。

平成26年4月1日現在、区内に区立学童クラブは31あり、地区別の設置状況は表1のようになっています。また、開設年度は表2のようになっており、最も古いのは昭和42年の毛利学童クラブとなっています。

地区名	学童クラブ
白河	1
富岡	1
小松橋	2
東陽	2
豊洲	9
亀戸	3
大島	6
砂町	4
南砂	3
計	31

表1. 地区別 学童クラブ数

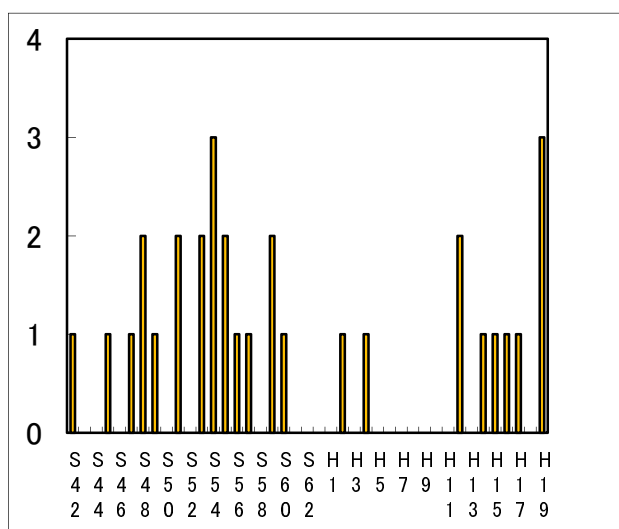


表2. 開設年度別 学童クラブ数

建築後経過年数を表3で見ると、10年未満の施設が5クラブ、10年以上20年未満の施設が8クラブ、20年以上30年未満の施設が1クラブ、30年以上40年未満の施設が11クラブ、40年以上のクラブが6クラブとなっています。

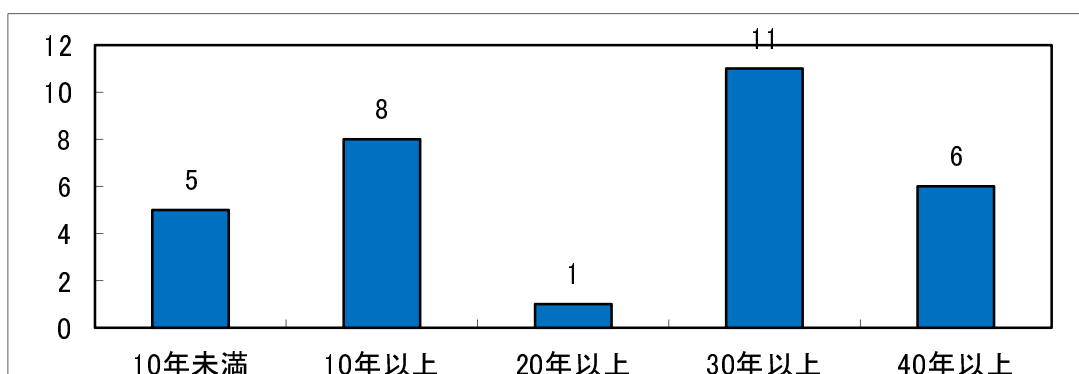


表3. 建築後経過年数別 学童クラブ数

学童クラブの登録児童数の推移を、対象学年児童数の推移および対象学年児童数に占める学童クラブ登録児童の割合とあわせて見てみると、表4のようになります。対象学年児童数は、近年のマンション急増を背景に、増加傾向にあります。対象学年児童数に占める学童クラブ登録児童の割合は、共働き家庭の増加や、1人親家庭の増加を背景として増え続けていましたが、平成22年度より江東きっずクラブ（※）を開始したことにより、平成26年度時点で14.2%と、4年で半減しています。

（※） 江東きっずクラブ：小学校のこどもたちが放課後等に安全で安心して、楽しく過ごすことができる居場所・生活の場を提供する事業

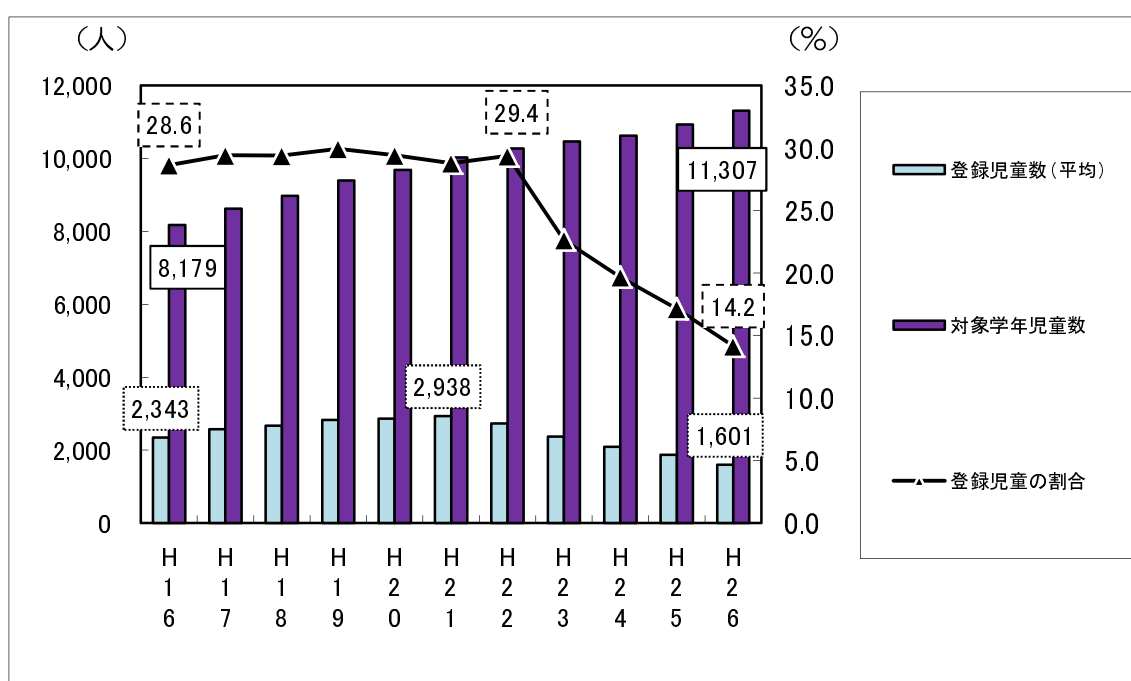


表4. 学童クラブ 登録児童等の推移

（登録児童数等：「特別区の統計」より）

表5のとおり、近年は待機児童0を維持しています。

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
学童クラブ数	44	45	43	41	38	34	31
登録児童数(人) (※4月1日現在)	2,811	2,891	2,690	2,335	2,061	1,852	1,576
入会待機児童数(人)	0	0	0	0	0	0	0
<参考> 江東きっずクラブ実施校	—	—	4	11	16	21	26

表5. 学童クラブ 入会待機児童数の推移

(5) 保育所

保育所は、保護者の就労又は疾病等の理由により乳幼児の保育を必要とするとき、その乳幼児を日々保育する施設です。

平成26年4月1日現在、区内には認可保育所として区立保育所44ヶ所、私立保育所42ヶ所のほか、認可外保育施設として、認証保育所64ヶ所、保育室2ヶ所、家庭福祉員9人、グループ保育室2ヶ所、グループ保育型家庭的保育室4ヶ所、保育ルーム3ヶ所があります。これらの施設についても、区は補助を行っています。

平成27年4月から、認可保育施設については、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業所の確認を行い、子ども・子育て支援法に基づき補助を行います。

区立保育所の地区別の配置状況は表1のとおりです。

地区名	区立保育所
白河	3
富岡	2
小松橋	3
東陽	1
豊洲	8
亀戸	4
大島	6
砂町	8
南砂	9
計	44

表1. 地区別 区立保育所数

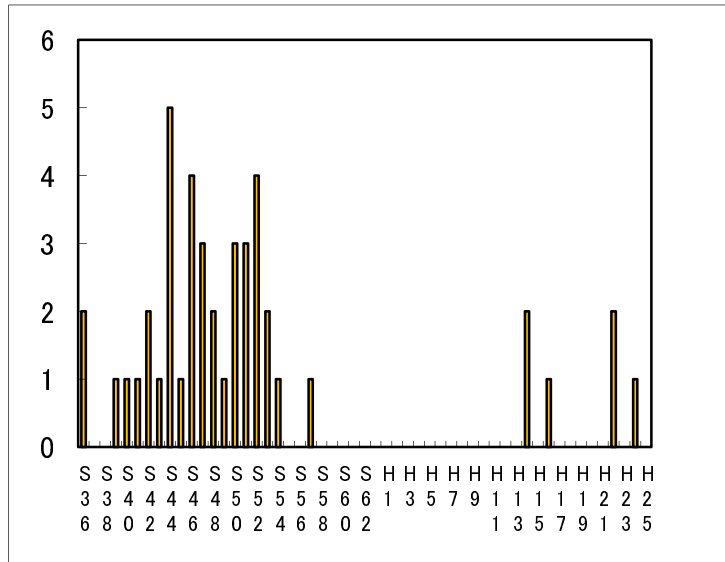


表2. 開設年度別 区立保育所数

建築後経過年数を表3で見ると、40年以上経過した施設が18施設と最も多くなっています。これらの大半は、都営住宅およびUR住宅の1階に設置されており、単独での大規模な改築等が難しい状態になっています。

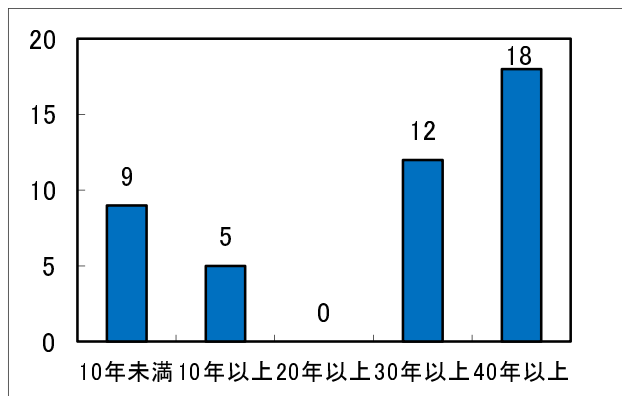


表3. 建築後経過年数別 区立保育所数

認可保育所及び認可外保育施設をあわせた区内総保育定員数の推移を0歳から5歳人口の推移とあわせてみると、表4のようになります。また、区内総保育定員数の内訳は表5のとおりです。

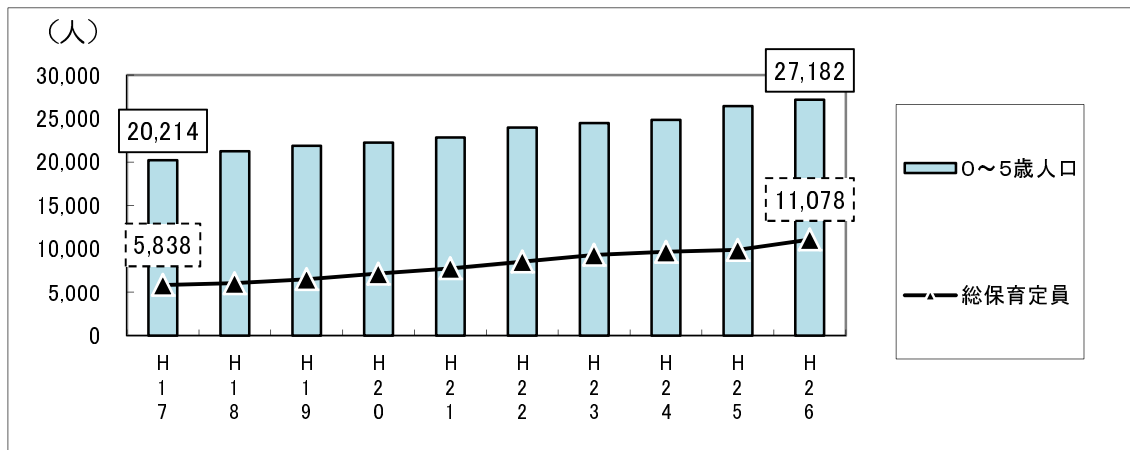


表4. 区内総保育定員数および0～5歳人口の推移
(定員数：業務実績より)

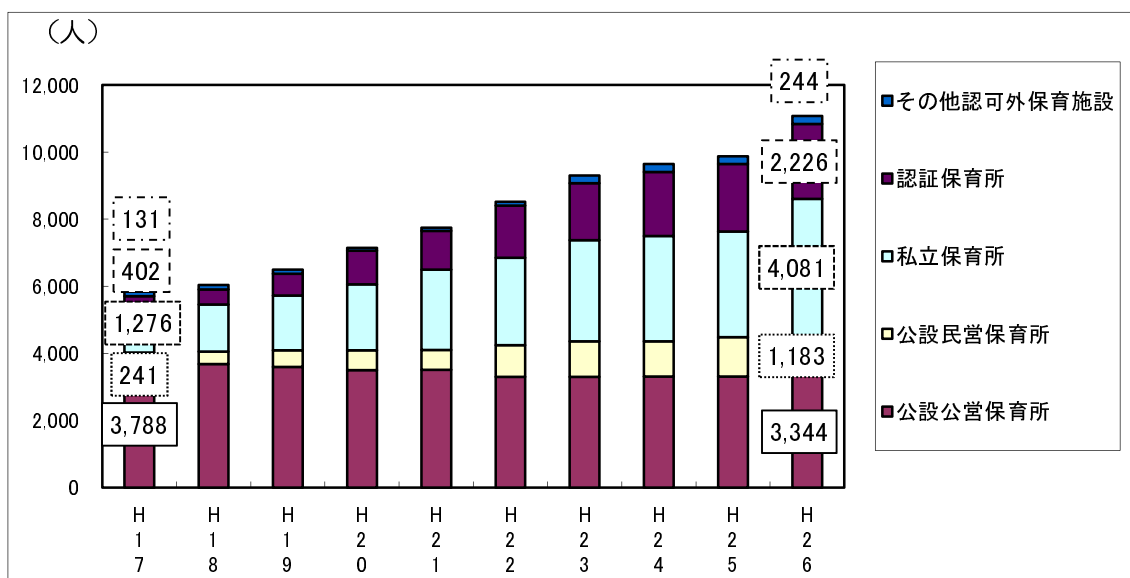


表5. 区内総保育定員数内訳
(定員数：業務実績より)

大規模なマンション開発が行われている南部地域を中心として、0歳から5歳人口が毎年増加しているとともに、近年の社会的なニーズの高まりもあり、特に0歳から2歳の低年齢児を中心に多くの待機児童が発生しています。区では、認可保育所の整備を積極的に行い、保育定員の増を図っています。

今後も実質的な待機児童の解消に向けて、地域需要に応じた施設整備を実施する必要があります。

(6) 小学校

平成26年4月1日現在、区内に小学校は44校あり、区内の地域ごとの配置状況は表1、年度ごとの建築状況は表2のとおりです。また、南部地域の急激な人口増に対応するため、平成27年度に豊洲西小学校が開校するとともに、平成30年度の開校に向け、(仮称)第二有明小学校の整備が進められています。

地区名	区立小学校
白河	3
富岡	4
小松橋	4
東陽	3
豊洲	7
亀戸	5
大島	6
砂町	7
南砂	5
計	44

表1. 地区別 区立小学校数

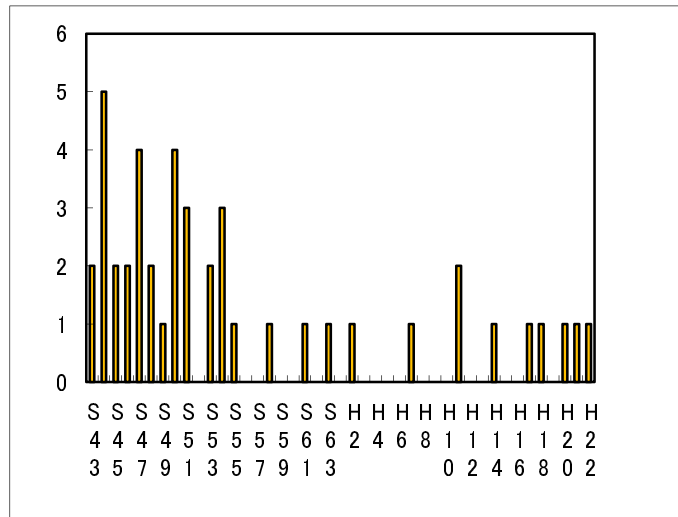


表2. 建築年度別 区立小学校数

建築後経過年数を表3で見ると、現在、40年以上経過しているのが18校、30年以上経過しているのが14校となっています。

なお、新耐震設計法適用(建築基準法改正/昭和56年6月施行)以前に建築された校舎等については、耐震診断を行い、耐震性能の低い建物については、補強工事を実施済みです。

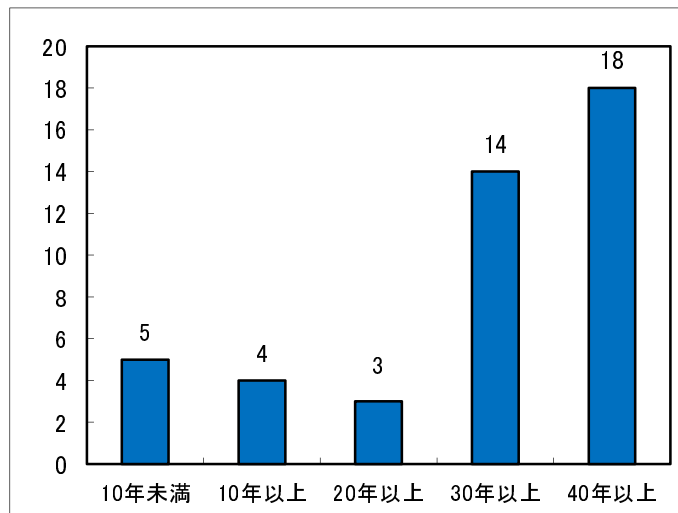


表3. 建築後経過年数別 区立小学校数

児童数の推移を学校施設数とあわせて見てみると、表4のようになります。施設数は平成23年度に有明小学校が開校し44校となっています。

児童数も人口の増加に比例し増加傾向にあります。

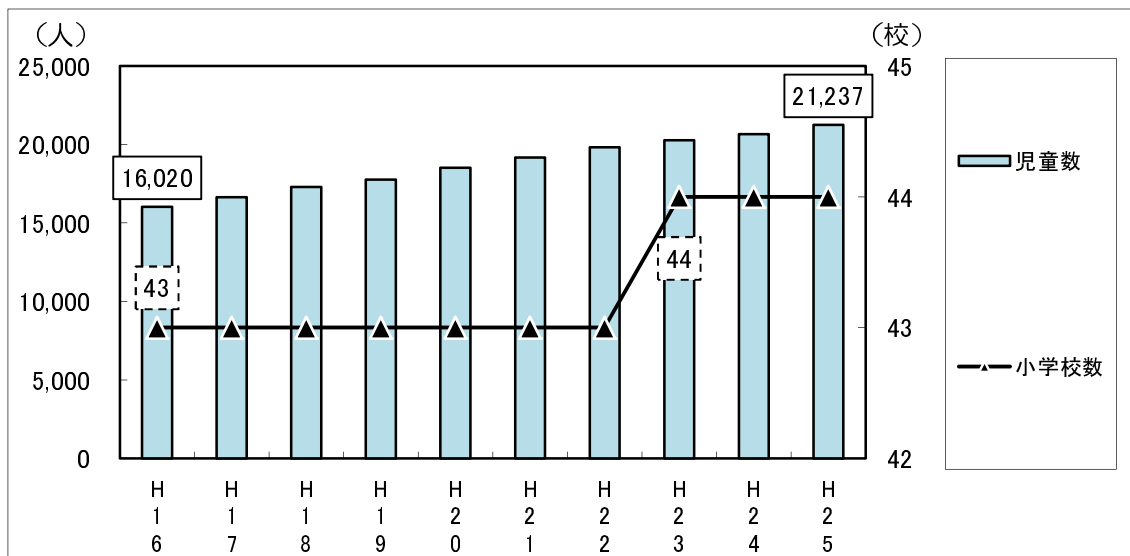


表4. 児童数および小学校数の推移

(児童数等：「特別区の統計」より)

学級数と児童数および学齢児童数の推移を見てみると表5のようになります。

学級数は児童数に比例して増加し、平成25年度時点では705クラスとなっています。

区内の学齢児童数に占める区内区立小学校在籍者率（児童数/学齢児童数）は、平成16年の97.5%から減少し、平成25年では94.1%まで減少しています。

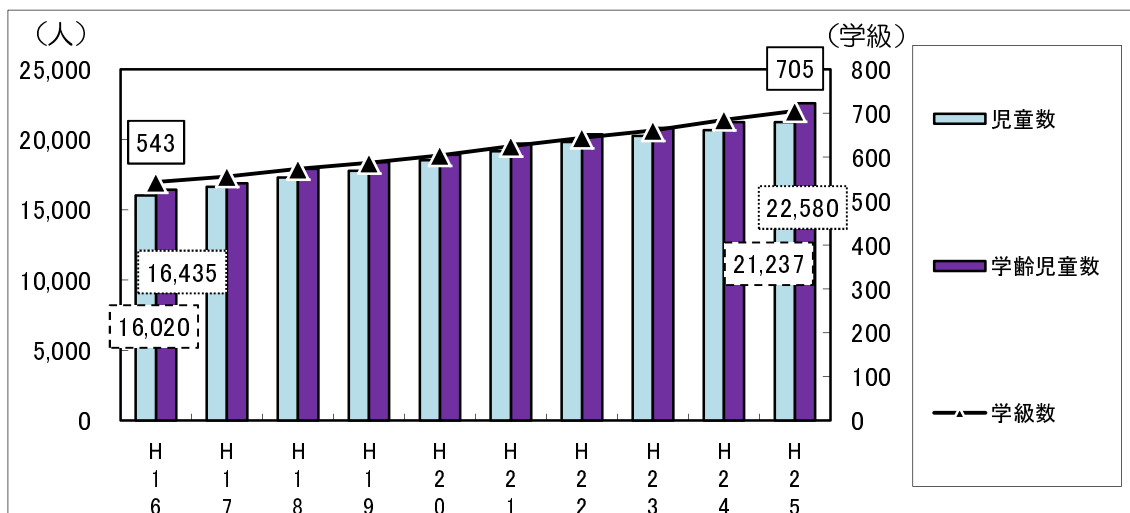


表5. 学級数、児童数および学齢児童数の推移

(児童数等：「特別区の統計」より)

(7) 中学校

平成26年4月1日現在、区内に中学校は23校あり、区内の地域ごとの配置状況は表1、年度ごとの建築状況は表2のとおりです。また、南部地域の急激な人口増に対応するため、平成30年度の開校に向け、（仮称）第二有明中学校の整備が進められています。

地区名	区立中学校
白河	2
富岡	2
小松橋	2
東陽	1
豊洲	4
亀戸	3
大島	3
砂町	3
南砂	3
計	23

表1. 地区別 区立中学校数

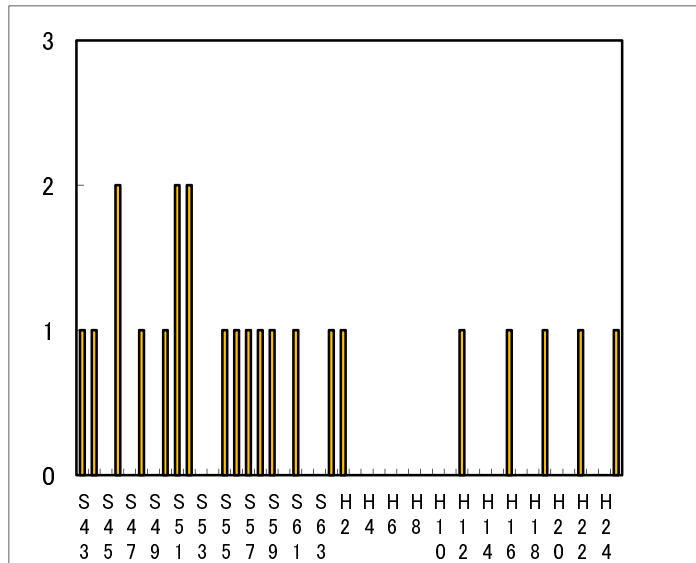


表2. 建築年度別 区立中学校数

建築後経過年数を表3で見ると、現在、40年以上経過しているのが5校、30年以上経過しているのが10校あります。

中学校についても、小学校同様、新耐震設計法適用（建築基準法改正／昭和56年6月施行）以前に建築された校舎等については、耐震診断を行い、耐震性能の低い建物については、補強工事を実施済みです。

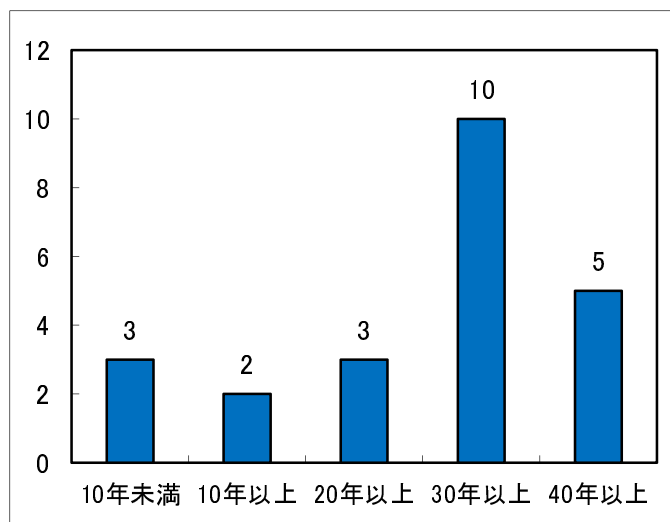


表3. 建築後経過年数別 区立中学校数

生徒数の推移を学校施設数とあわせて見てみると、表4のようになります。施設数は平成23年に有明中学校が開校し、23校となりました。

生徒数は平成20年度ごろまで横ばいでしたが、以降増加に転じ、平成25年度現在で区内の区立中学校生徒数は7,545人となっています。

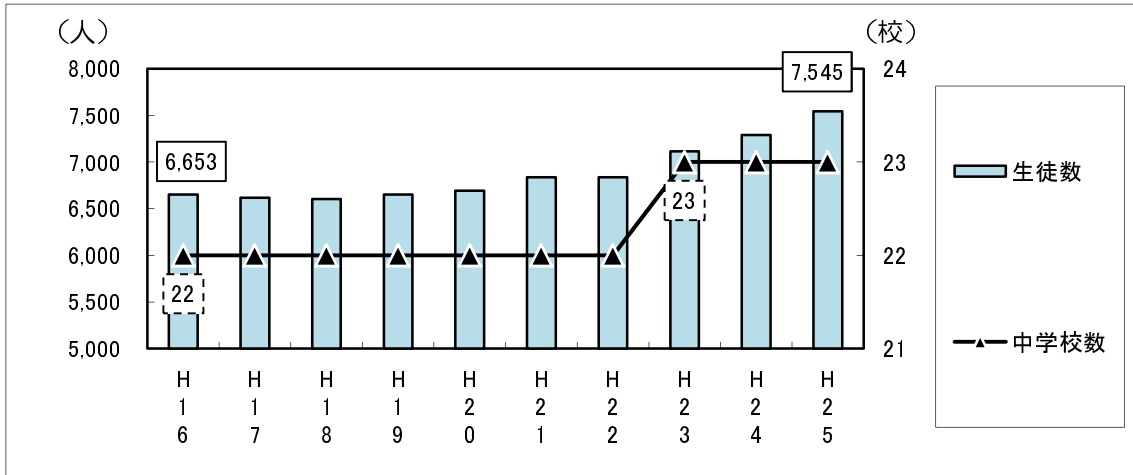


表4. 生徒数および中学校数の推移

(生徒数等：「特別区の統計」より)

学級数と生徒数および区内の学齢生徒数の推移を見てみると表5ようになります。学級数は平成18年度に205クラスと最小クラス数となった後は増加に転じ、平成25年度時点で242クラスまで増加しています。

区内の学齢生徒数に占める区内区立中学校在籍者率（生徒数/学齢生徒数）は減少が続いており、平成16年度の80.6%から平成25年度では72.2%まで減少しています。

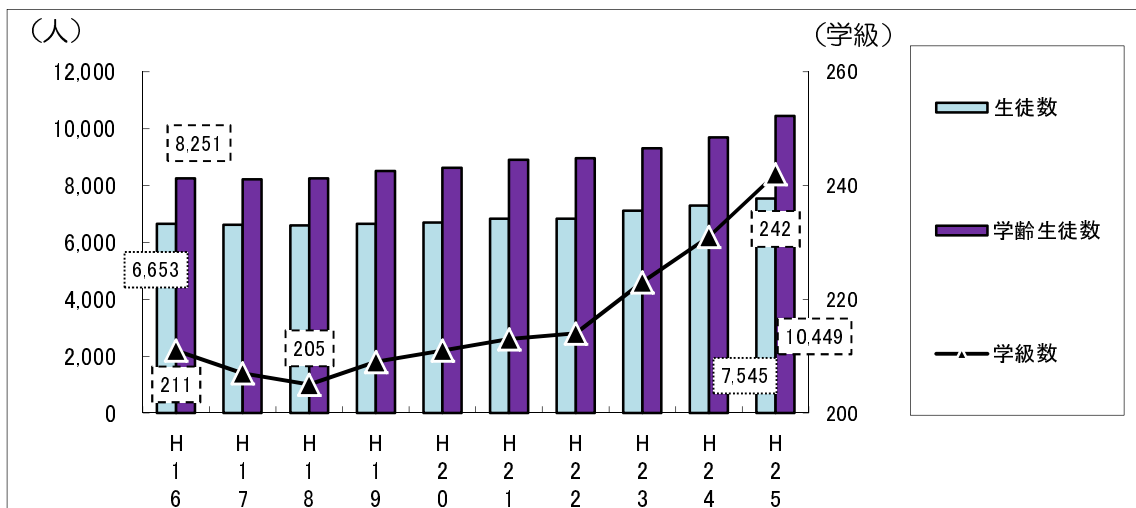


表5. 学級数、生徒数および学齢生徒数の推移

(生徒数等：「特別区の統計」より)

(8) 幼稚園

幼稚園は、小学校や中学校、高校、大学などと同じように、学校教育法に定められた「学校」であり、「幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的」（学校教育法第22条）としています。ただし、小中学校のような義務教育機関ではなく、満3才から小学校就学前までの幼児に入園資格があります。

平成26年4月1日現在、区立幼稚園が20園（4・5歳児のみ）、私立幼稚園等が12園あり、その他に幼稚園類似の幼児施設3園があります。区立幼稚園の地区ごとの配置状況及び開設年度は表1・2のようになっています。

地区名	区立幼稚園
白河	1
富岡	1
小松橋	2
東陽	2
豊洲	4
亀戸	2
大島	3
砂町	3
南砂	2
計	20

表1. 地区別 区立幼稚園数

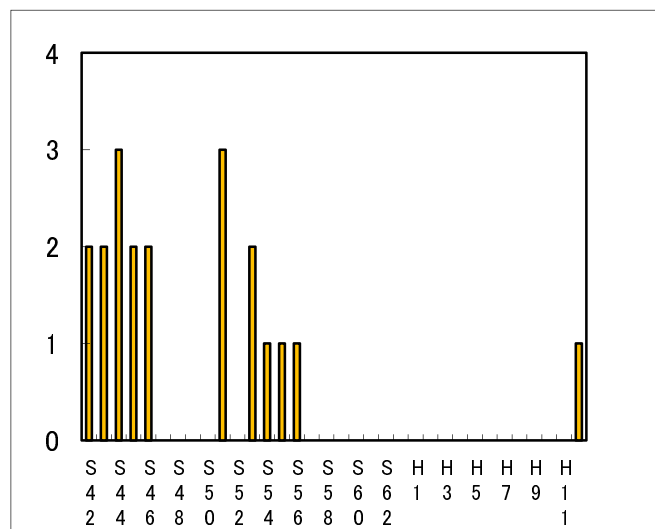


表2. 開設年度別 区立幼稚園数

建築後経過年数を表3で見ると、現在、40年以上経過している施設が5施設、30年以上経過している施設が12施設と、ほとんどの施設が建築後30年以上経過しています。

区立幼稚園20園中、小学校と併設園が8園、独立園が12園となっています。（26年度現在）

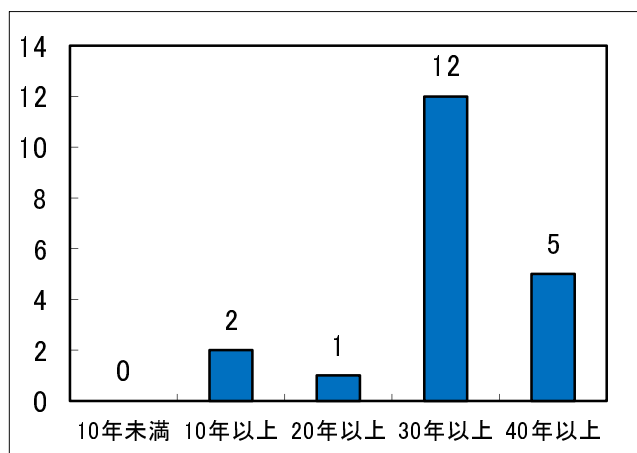


表3. 建築後経過年数別 区立幼稚園数

幼児人口（3歳から5歳）と、区立園および私立園の入園者数の推移をあわせて見ると、表4のようになります。幼児人口（3歳から5歳）は増加が続いており、平成25年度は12,900人となり、平成16年度に比べ35%ほど増加しています。私立幼稚園の入園者は幼児人口と同様に増加を続けていますが、区立幼稚園では平成19年度の2,117人をピークに減少しています。

区立と私立を比較すると、私立幼稚園の入園者数が区立幼稚園の入園者数を上回っていますが、区立幼稚園は4歳児・5歳児クラスのみ、私立園は3歳児クラスを設けています。なお、私立園児数には類似施設等は含んでいません。

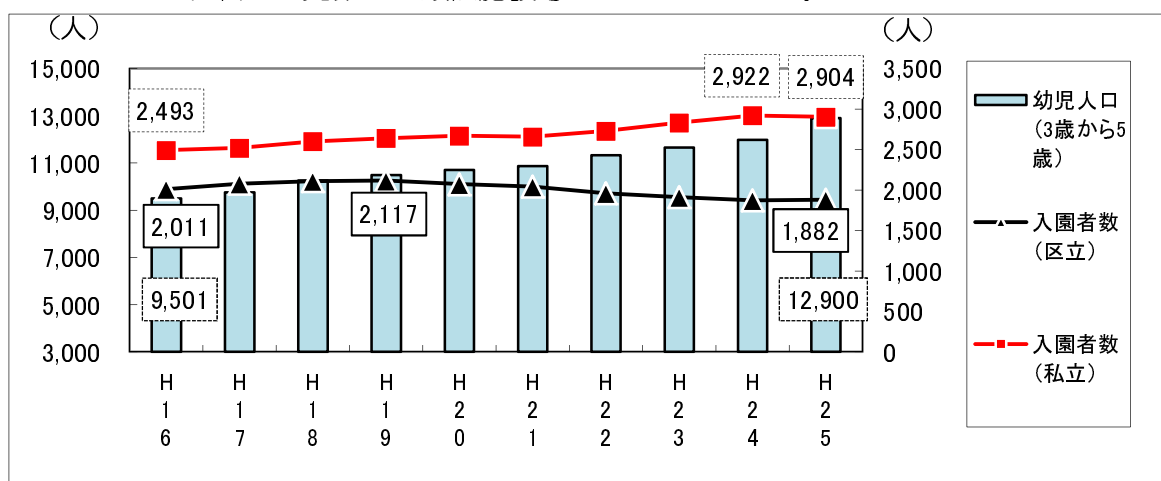


表4. 幼児人口および区・私立幼稚園入園者数の推移

(入園者数：「特別区の統計」より)

幼児人口（3歳から5歳）に占める区立・私立幼稚園児割合を見てみると表5のようになり、平成16年度の47.4%から、平成25年度には37.1%まで減少しています。

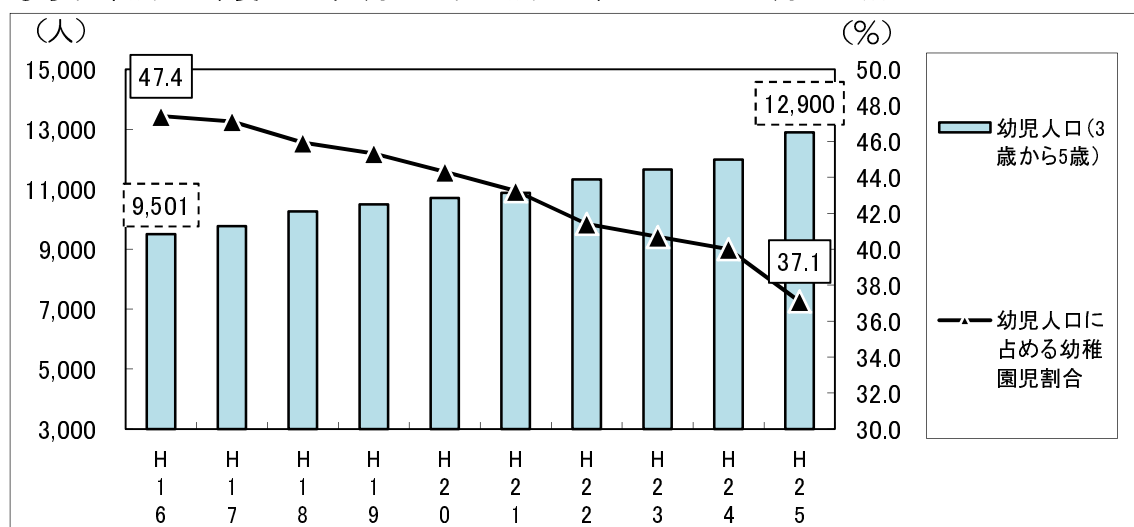


表5. 幼児人口と幼児人口に占める幼稚園児割合

(入園者数：「特別区の統計」より)

(9)区民体育館

区民体育館は、区民が体づくり、レクリエーションの場として気軽に利用でき、スポーツを生活の一部として楽しむことで健康で文化的な生活の向上に寄与するよう設置されています。

各館には、施設によって違いはありますが、概ね、体育室、柔道場、剣道場、弓道場、プール、トレーニング室などがあります。

各施設の所在地、建築年度等は表1のとおりです。

なお、平成27年度開校の豊洲西小学校の体育館棟（体育館・温水プール・トレーニング室）を、学校が使用しないときに地域に一般開放します。

施設名	所在地	開設年度	建築年度	建築後経過年数 (平成26年度時点)
スポーツ会館	北砂 1-2-9	S.50	S.50	39年
深川スポーツセンター	越中島 1-2-18	S.63	S.63	26年
亀戸スポーツセンター	亀戸 8-22-1	H.2	H.2	24年
有明スポーツセンター	有明 2-3-5	H.8	H.7	19年
東砂スポーツセンター	東砂 4-24-1	H.8	H.8	18年
深川北スポーツセンター	平野 3-2-20	H.14	H.14	12年

表1. 区民体育館 所在地・開設年度・建築年度

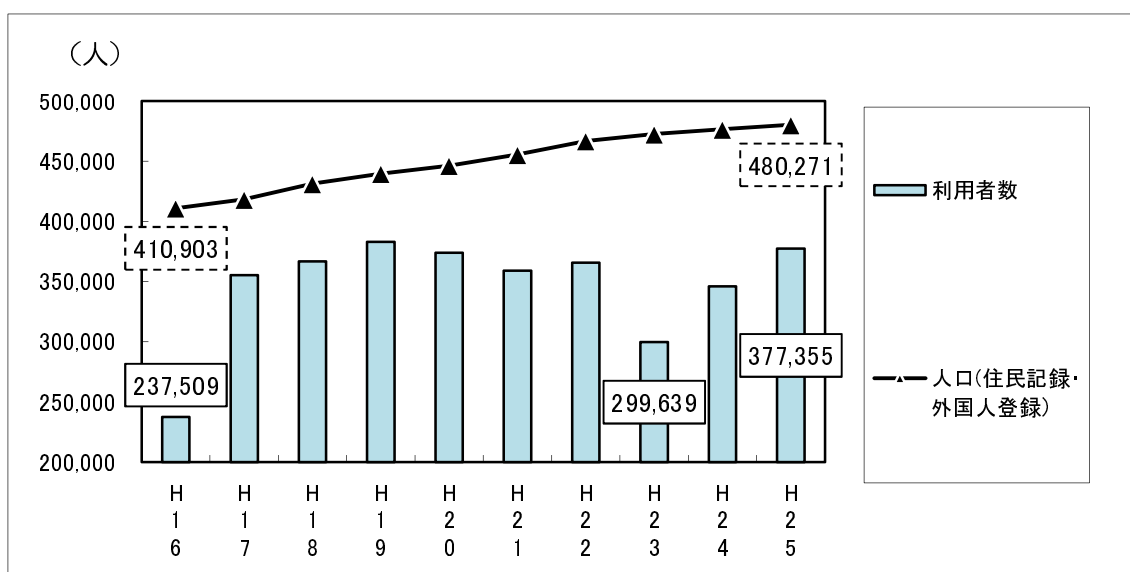


表2. 体育室 利用者数の推移

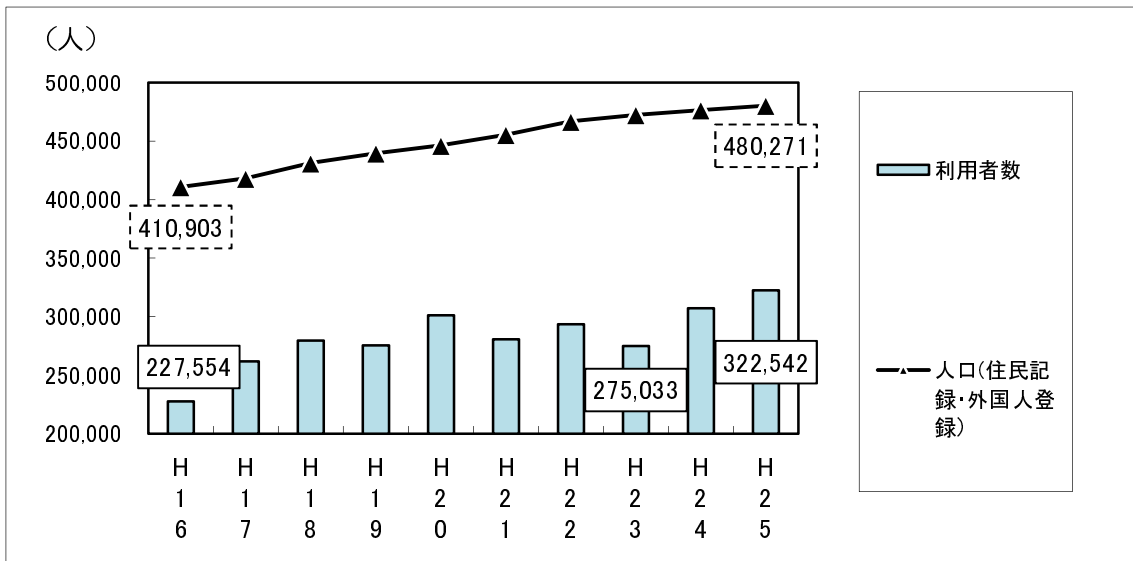


表3. トレーニング室 利用者数の推移

体育室利用者とトレーニング室利用者について、人口の変化と利用者数の変化をみると、表2及び表3のようになります。

また、人口増分の効果を差し引いて考えるため、各年の利用者数(延べ)を人口で割り、区民100人当たり年間利用回数を出してみると表4のようになります。

平成23年度、東日本大震災の影響や亀戸スポーツセンターの改修による休館に伴い、体育室、トレーニング室ともに利用者数の減少が見られますが、これを除くと概ね横ばいで推移しています。

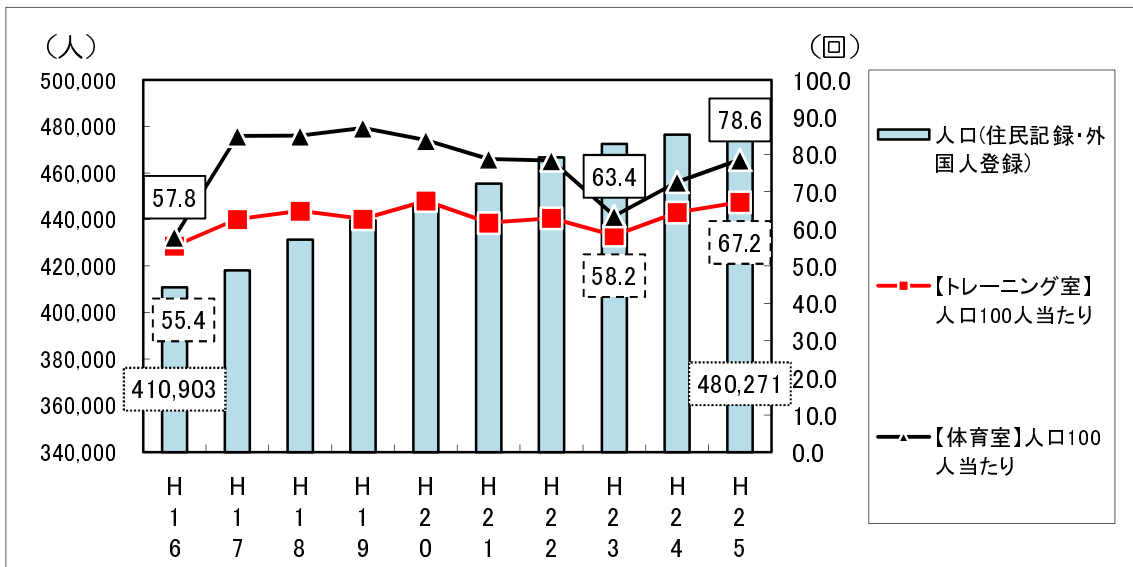


表4. 人口100人当たり年間利用回数の推移

(表2、3、4定員利用者等：「特別区の統計」より)

(10) 図書館

図書館は、図書館法第2条による「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする」施設です。

平成26年4月1日現在、12館（分館・サービスコーナーを含む）あり、オンラインネットワークで結ばれ、貸出証（貸出カード）によって、どの館でも貸出・返却ができます。また、インターネットで予約ができ、希望者には予約した資料が届いた旨を電子メールで通知しています。さらに、枝川図書サービスコーナーを除く全館に利用者用インターネット接続パソコンを設置しており、オンラインで官報情報の閲覧サービスなどを提供しています。また、子どもを対象とした「おはなし会」、「映画会」等の開催や、区内小・中学校の「総合的な学習の時間」における「調べ学習」の援助なども行っています。

各施設の所在地、建築年度等は表1のとおりです。

なお、豊洲図書館は、平成27年9月より豊洲シビックセンター内に移転予定です。

施設名	所在地	開設年度	建築年度	建築後経過年数 (平成26年度時点)
江東図書館	南砂 6-7-52	S.51	S.50	39
深川図書館	清澄 3-3-39	M.42	H.5 改築	21
白河こどもとしゃかん (深川図書館分館)	白河 4-3-19	S.49	H.22	4
東陽図書館	東陽 2-3-6	S.60	S.60	29
豊洲図書館	豊洲 2-2-18	H.元	S.63	26
東雲図書館	東雲 2-7-5-201	H.9	H.8	18
古石場図書館	古石場 2-13-2	H.9	H.9	17
城東図書館	大島 4-5-1	S.30	S.54 移転	35
亀戸図書館	亀戸 7-39-9	S.57	S.57	32
砂町図書館	北砂 5-1-7	H.2	H.元	25
東大島図書館	大島 9-4-2-101	H.4	S.62	27
枝川図書 サービスコーナー	枝川 3-6-16	H.21	H.20	6

表1. 図書館 所在地・開設年度・建築年度

現在の施設で最も古いのが江東図書館（昭和61年度東京都より移管）で、ついで城東図書館、亀戸図書館となっており、最も新しいのが平成22年度建築の白河こどもとしゃかんです。

利用者数の推移を見てみると表2のようになります。

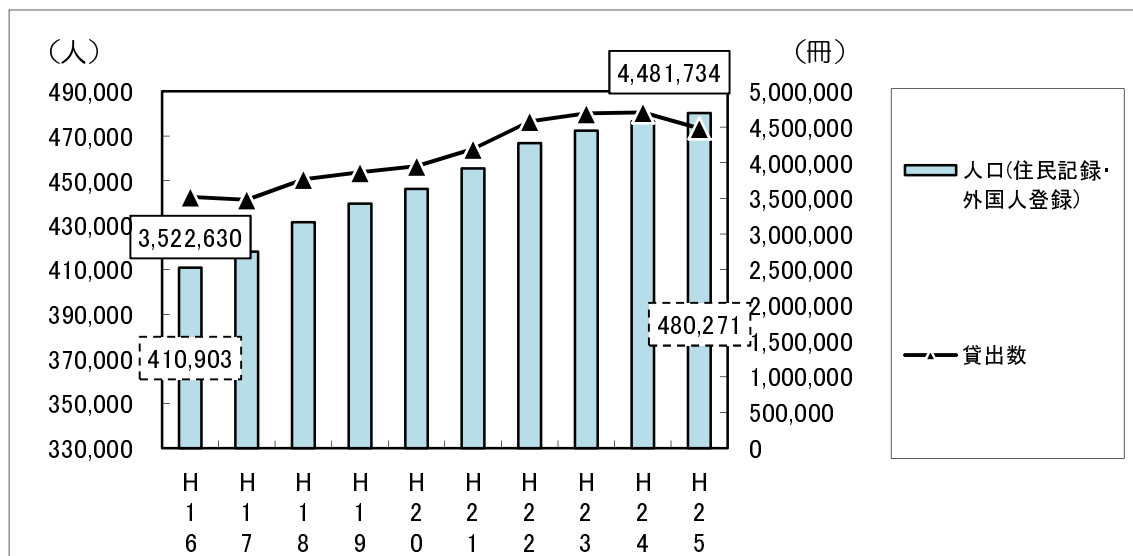


表2 人口および貸出数の推移

(貸出数：「特別区の統計」より)

図書の貸出数の件数は、人口増加を背景に平成24年度まで右肩上がりに増加していましたが、平成25年度は減少に転じています。人口増減の影響を差し引いて考えるため、貸出数を人口で割り、人口1人あたりの年間貸出件数を出してみると、表3のようになっています。人口1人当たり貸出数は大きな変動はありませんが、平成23年度には10冊に迫るなど高い水準を維持しています。

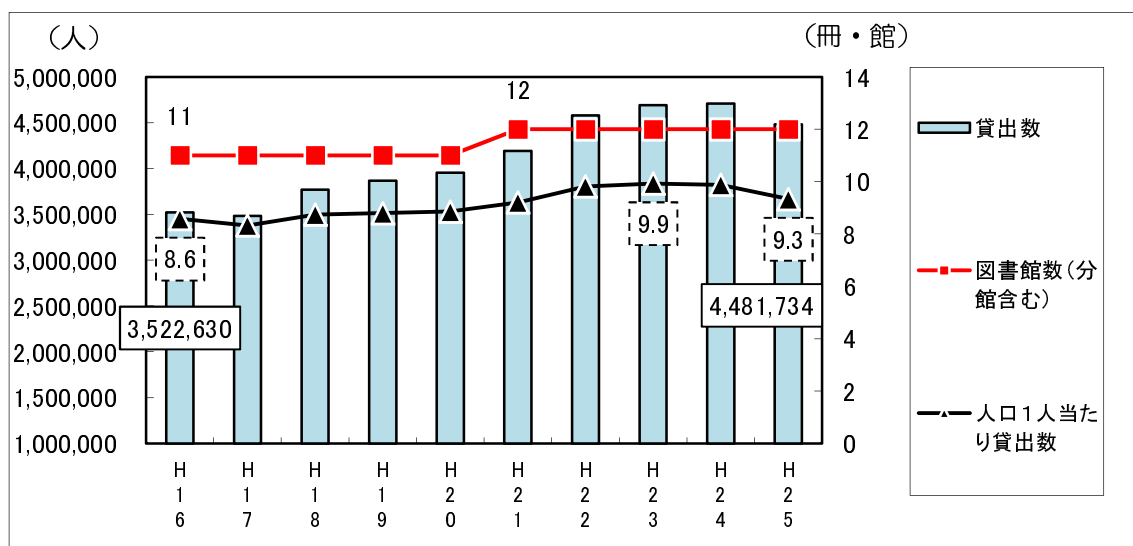


表3. 貸出数および人口1人当たり貸出数等の推移

(貸出数：「特別区の統計」より)